



TKSだより

第36号

つばさ

富山県立高岡高等支援学校
令和4年3月4日発行



「さらなる成長を願って」

校長 古野 芳子

3学年の生徒と就職のための面接練習を何度か行いました。真っすぐに私の目を見て、しっかりと自分の思いを伝える生徒の表情を見ていて、ふと3年前、教育相談をしていた頃のことを思い出しました。質問に黙ったまもうなずいたり、首をかきあげて「分かりません」と繰り返したりしていた不安げな中学生は3年間努力を続け、立派に成長を遂げ、職業人になろうとしています。これまで生徒に成長の機会を提供し、温かくサポートしてくださった地域の皆様、企業・事業所の皆様、関係機関の多くの皆様に心より感謝申し上げます。

卒業を前に学校生活の一番の思い出を尋ねると、多くの生徒は修学旅行を挙げ、「仲間と一緒に楽しかった」「絆が深まった」「この先も支えあっていきたい」と答えます。コロナ禍のため県内での研修となりましたが、友達と一緒に体験することが、生徒にとってどれほど楽しく特別なことであつたのかがうかがえます。学校生活を継続するために、人との距離をとること、学級・学年間の交流を厳しく制限してきたことを思い、切ない気持ちになる反面、そうした環境だからこそ、人とのつながりや人と思いを共有すること、一緒に成し遂げること、日常を皆で喜び合う幸せを感じることができたのだと思います。

卒業生を含め、生徒にはこれからの社会に不安を募らせるばかりでなく、楽しみを見付けながら生き抜く力、仲間とともに勇気と希望をもって前進する力を大きく育ててほしいと願います。そのために、教職員一同知恵を絞り、工夫を重ねて、教育活動を一層充実させてまいります。今後とも変わらぬご支援、ご協力をお願いいたします。



「卒業によせて」

3学年主任 池田 真理

ご卒業おめでとうございます。

3学年という大切な時期に、学年主任をさせていただき、共に過ごす中、日々成長していく皆さんを見るのはとても嬉しかったです。特に、全員が希望する就労先から内定をいただけたことは、本当に喜ばしく思います。一人一人、何が自分の課題なのかを理解して、目標をもって、真剣に取り組んだからこそ得ることができた結果だと思っています。

この3年間の学校生活は社会に飛び立つための準備期間であつたと考えています。その準備とは、学校での様々な学習活動、行事、就業体験等、何事にも一生懸命に取り組み、やり遂げる力を身に付けることです。会社で働くということは、給料をいただくということで、それに見合った働きをしなければいけません。この3年間で学んだ「元気な挨拶」「報告・連絡・相談」「体調管理」「身だしなみ」「コミュニケーション」等を念頭に置き、会社の一員として、責任とやりがいをもって働いてくれることを願います。働くことは楽しいことばかりではなく、大変なことや悩むこともあると思います。そんな時は、この高岡高等支援学校で学んだことや仲間の顔を思い出してください。皆、同じようにそれぞれの道で頑張っています。また、困難を乗り越えることが、人間として一回り成長させてくれます。更に自分を成長させ、人生を彩らせてほしいと思います。そして素直な気持ちをもって周りの人に接し、可愛がられる人、応援される人になってほしいと思います。

最後に、日頃から学校教育に協力していただき、子供たちに寄り添いサポートしてくださった保護者の皆様、この日を迎えられる本当に喜ばしく思っております。ありがとうございました。

3 学年修学旅行



12月9日(木)から1泊2日で、修学旅行に行ってきました。富山ガラス工房や富山県美術館、宇奈月温泉街の散策、吉田科学館など自分たちの郷土である富山県内の産業、歴史、文化、自然について触れ学ぶことができました。コロナ禍の中、感染対策をしっかりと行けたことに感謝すると共に、3年間一緒に過ごした仲間と最高の思い出を作れたことを嬉しく思います。

受賞者報告

第 49 回花と緑のポスター原画コンクール 佳作 2年 鍋田 将虎

第 19 回 高校生福祉文化賞エッセイコンテスト 入賞 2年 橋爪 柚希

令和 2 年度生徒図書委員表彰
3年 小幡 知也

令和 4 年度当初の行事予定 4月 8日(金) 始業式、入学式

5月 2日(月) 学習参観、PTA 総会、学年懇談会、携帯電話安全教室

1 年間を振り返って (アクションプラン評価)

学校評価アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。全12項目で「かなり思う」「やや思う」が85%以上であり、本校の教育活動について概ね満足いただいていると捉えております。また、頂いたご意見について検討し、改善できるところについては対応していきたいと思っております。

重点課題	達成目標及び達成度	評価
1 学習活動：授業改善による学習指導の充実	教員や生徒から学び、授業改善に取り組んだ割合 一人2回以上 100%	A
取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・教員用の互見授業の授業改善カードは、授業の観点や工夫点等を箇条書きで簡潔に表記するようにした。また、事前に他の教員から学んだことも表記し、学びが授業に反映されているか確認できた。 ・授業の振り返りに、生徒の感想カードの記入を進めることで、授業者は生徒の反応や理解度を把握することができ、授業改善のポイントが明確になった。 	
今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒用アンケートを活用することで生徒が分かる授業改善につながったこと、異年齢の教員間で相談や学び合える環境作りができたことから、今後も生徒の学習意欲や理解力を高め、深い学びにつなげていくため、生徒用アンケート、授業改善カードの活用をさらに進めていく仕組みを考えていきたい。 	
2 学校生活：防災教育の充実	① 避難訓練及び研修 年間5回実施 ② 防災マップを使った指導 全校生徒に実施	A
取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ① 4月には始業式前に教職員に対する危機管理マニュアルを活用した研修、5月には全校(生徒も含め)にて防火避難訓練を行った。9月には、始業式後に地震時の対応を生徒に指導後、シェイクアウト訓練を行った。12月には、生徒への予告や教員の事前の役割分担なしで避難訓練を実施、合わせて消防士による消火器使用のデモンストレーションと代表生徒8名による消火器使用の体験を行った。 ② 1学年は理科、2、3学年は総合的な探究の時間において防災マップを使用した授業を行い、学校周辺の危険箇所や防災時の対応、それぞれの居住地の防災対応などを学ぶ機会を設定した。 	
今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> ① 災害時における対応や防災マップの使い方等を積極的に学ぼうとする生徒の防災意識の高まりが感じられた。今後も「自分の命は自分で守る」という意識を高め、進路先等での災害対策に生かすための、情報収集や連絡方法の確認等について継続して指導していきたい。 ② 地域の防災行事や地域住民とのウォーキング活動が中止となったが、今後も積極的に地域と連携して防災教育を進めていきたい。 	
3 情報：生徒の主体的な学びにつながる効果的な ICT 機器の活用の促進	教員及び生徒の ICT 活用能力の向上 教員 100% 生徒 85%	B
取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートで教員のニーズを把握し、富山県総合教育センター科学情報部や GIGA スクールサポーターによる研修を実施した。 ・Wi-Fi 工事等の遅れから、生徒が各自のタブレット端末を使用できるようになったのは12月初旬であったため、ICT 活用能力の向上を測るアンケートは2月に実施した。 ・教員が活用しやすいよう、校務用 PC の各教科のフォルダを活用目的別、教科単元別に整理し、事例を検索しやすくした。 	
今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・研修会で得た知識や使い方を授業のどの場面でどのように活用すれば効果的か、また、生徒の主体的な学びを引き出すためのアナログとデジタルの使い分けをどうするか等について検討していく必要がある。 ・ICT 活用実践例については、今後は各教員が整理しながら蓄積し、より活用しやすいようにしていく仕組みづくりが必要である。 ・生徒一人1台のタブレット端末の配付に伴い、情報モラルの指導の充実が必要である。 	